



整形外科の主要分野をカバーし 高度な医療を的確かつスピーディに提供

大阪鉄道病院を牽引する科として患者さん、医療人を含め地域の人々から厚い信頼を寄せている整形外科。

この春には医師1名を増員し、
さらにパワーアップしてご期待にお応えしていきます。

ドクターインタビュー

部長 上村 卓也 (うえむら たくや)

専門分野／手・肘の外科、末梢神経外科、整形外科一般
資格／日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本手外科学会認定手外科指導医・専門医、日本肘関節学会評議員、日本末梢神経学会評議員、日本マイクロサージャリー学会評議員、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医、Best Doctors 2022-2025



—大阪鉄道病院整形外科の特徴をお聞かせください

整形外科の専門領域の中でも患者さんの多い「脊椎」「関節」「手」、それぞれの分野に熟練した専門医を複数名擁し、中規模病院でありながら大学病院に遙かのない高レベルの医療が提供できていると自負しています。手術治療も非常に数多く行っています。医師はもちろん、医療スタッフも経験豊富で、最新鋭の設備機器も揃っていて患者さんにもご安心いただけます。万全の体制と柔軟な対応力で、手術が必要な患者さんを長期間お待たせすることなく治療できる「敷居が低く専門性が高い病院」というのが特徴です。加えてこの春より新しく手外科医1名を増員して常勤医9名体制が実現し、さらに機動力が高まりました。大所帯ですが、医師、リハビリ部門、看護師などのコミュニケーションを含め、みんな明るくコミュニケーションがとりやすいのも、当院の魅力といえますね。

—加えて総合病院であることも患者さんの安心材料になりますね

整形外科にいらっしゃる患者さんの手の症状や主訴によっては、手か脊椎が原因なのか、あるいは神経内科の病気か、専門の医師でないと判断がつきにくいケースがありますが、当院の場合、科内・他科との連携がしっかりとれている上、それぞれの医師の経験値が高いため、迅速に正しい診断が可能です。手術の前後にはリハビリ科との連携はもちろん、麻酔科や内科、検査科など、必要に応じて他科と協力しあい、合併症のある患者さんでも安全に手術を受けていただけるよう努めています。

—関節、脊椎についていかがですか

関節の分野では、近年ナビゲーションシステムを導入し、より安全で正確な股関節、膝関節の人工関節置換術が可能になりました。詳細は後ろのページで岸村医師が語っておりますのでぜひご参照ください。脊椎に関しては、キャリア豊富な3名の専門医師を中心に年間500件もの手術を行っています。当院の特徴は、狭くなった脊柱管を広げる「除圧術」だけでなく、脊椎の曲がりや不安定性がある場合は、インプラントを使用して脊椎を固定する「固定術」も数多く実施しているところです。後者は長時間の大手術になることもありますが、医師もスタッフも熟練者の揃う当院だからこそ安全かつスピーディに手術を行うことができ、多くの症例を早期に手術治療できています。

【診療実績 (2023年度)】

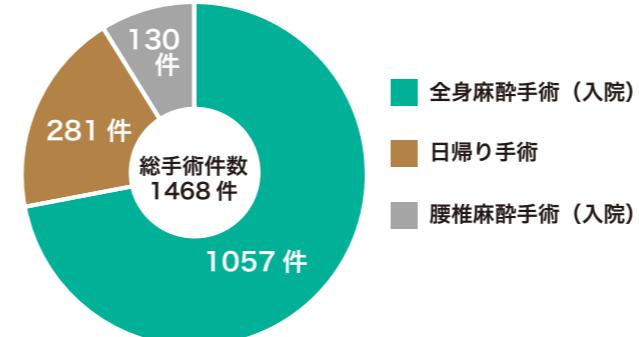
外来患者数	75人 / 日
入院患者数	39人 / 日
平均在院日数	17.8日

【主な手術件数 (2023年度)】

脊椎手術	548件
人工関節手術（膝・股関節）	164件
手外科・上肢手術	352件



手術の内訳 (2022年度)



—最後に患者さん、登録医の先生方へのメッセージをお願いします

私たちの願いは、一人一人の患者さんに無理なく快適な生活を送っていただくことです。手術はそのために有効な手段であり、当院では安全を絶対として、できる限り低侵襲で行うようにしています。とはいえ、手術はあくまで選択肢のひとつに過ぎません。回復には、術後のリハビリや制限のある生活のなかでも前向きな気持ちを維持することなど、患者さんの体力精神力も必要です。その点も十分に確認しながら、その方の人生にとって何がベストかとともに考えて治療してまいります。多くの患者さんの治療に携わってきた経験を活かしながら、本当に納得いただける治療に取り組んでいきたいと考えていますので、安心して診療をお受けいただければと思います。登録医の先生方におきましては、手足のしびれや痛み、歩行障害など、診断に悩む症状の患者さんがおられましたら、どうぞお気軽にご相談、ご紹介ください。私たちは力を合わせて、今後もさまざまな形で地域医療に貢献していきたいと考えています。

日帰り手術 ～腕だけに効く麻酔～

当院では、腕だけに効く「伝達麻酔」により、手のケガや病気に対する日帰り手術を積極的に行っています。

伝達麻酔は、末梢神経の周囲に局所麻酔をほどこす麻酔法で、超音波診断装置（エコー）を見ながら麻酔薬を注入します。手術は鎮静の点滴も併用して行いますので、患者さんが眠っている間に手術を終えることができます。麻酔の効果は12時間程度あり、鎮静から覚醒後、強い痛みが出るタイミングに痛みを感じなくて済むのも大きなメリットです。



・適用は中学生以上を基本としています。小学生高学年でも可能な場合もあります。
・日帰りが不安という方は、ご入院いただくことも可能です。



エコーを用いて目的の腕の神経まで針を進め、局所麻酔薬を注入していきます。
高度な技術が求められる麻酔方法ですが、当科では経験を積んだ医師2名体制で、効果的にかつ安全に実施しています。



大阪鉄道病院の人工関節置換手術

医長 岸村 裕一 (きしむら ゆういち)

専門分野／関節外科、整形外科一般
資格／日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本人工関節学会認定医

進化を続ける人工関節置換術

この春に当院に赴任し、先輩にあたる高橋医師とともに人工膝関節および人工股関節置換術を担当しています。私自身、これまで10年以上人工関節の分野で経験を積み、約3,000例に及ぶ症例に携わってきました。また診断や手術はもちろん、術後の状態の予測や、痛みの原因へのアプローチなども、これまでの経験を総動員してより的確な対応ができると自負しています。

人工関節置換術は私が手術に携わるようになったこの10年間にも劇的に進歩しました。侵襲が少なくなるとともに手術時間も大きく短縮して1時間程度となり、患者さんへの負担はかなり軽減しています。年々高齢の患者さんが増えていますが、全身状態に問題がなければ、年齢関係なく手術が可能です。過去には車椅子で来られた90歳代の患者さんが、杖をついて歩けるまでに回復した例もあります。

手術を決めるのは患者さん

私は初診時にまず患者さんの状況を把握した上で、医師として手術が必要か必要でないかをはっきりとお伝えするようにしています。

もっとも、手術に恐怖感があり、できることなら避けたいと思われる患者さんは少なくありません。一番重視すべきは、ご本人がどれだけ困っておられるかということです。それは普段の活動量によっても異なりますし、何より「回復したい」という意志がなければ、手術を受けていただく意味がありません。どれだけパーカーフェクトな手術ができても、リハビリをしないことには回復が望めないからです。

その意味では、リハビリをがんばる強い気持ちがあることが手術の条件といえます。これらのことを患者さんの目線からわかりやすくご説明した上で、最終的にどうするかは患者さんのご希望に従います。

岸村が健康講座に登壇します！
第211回健康講座
「膝・股関節の痛み、人工関節専門医が解決します」

9月に当院にて開催される健康講座は、岸村裕一医師が担当。膝と股関節の手術について、わかりやすく解説します。ご興味をお持ちの方は、ぜひお運びください。
日時／2024年9月5日(木)
午後2時～(60分)
場所／大阪鉄道病院3階講堂
定員50名・予約不要・参加費無料



スタッフ一丸となって患者さんをサポート

いざ手術となっても、患者さんは不安をお持ちです。医師としては、フレンドリーにコミュニケーションを取り、話しやすい関係性を築くことを大切にしています。当院は看護師や医療スタッフも経験豊富で、しっかりと患者さんの心身をサポートする体制が整っています。特に術後1週間は痛みもあり、リハビリも苦しいなかで本当に治るのかと気持ちが不安になりやすい時期。そういうときにも、細やかにフォローすることで、モチベーションを保っていただけるよう努めています。

これからも患者さんに寄り添い、少しでも多くの方の生活の質向上のお役に立ちたいと思います。つらい時期を乗り越えて、晴れやかな表情で歩けるようになった患者さんとお会いするのは、この上ない幸せです。

ナビゲーションシステムを用いた人工関節置換術を安全に

旅をするときに計画も立てず、ナビのない車で目的地に到着するのは困難を要しますよね。手術も同様で、術前にしっかりと計画しておけば迷いなく手術を進めることができます。ナビゲーションシステムでは、手術前に得たCT画像をソフトに取り込み、3次元の詳細なデータとして立体的に術前計画を立てることができます。さらに手術中は術前計画を参考にナビゲーションを使用して行うため、より精度が向上します。



Message 手外科専門医を目指して

さらなる技術向上に向けて奮闘中！

医長 松本 聖志朗 (まつもと せいしろう)

専門分野／手、肘の外科、整形外科一般
資格／日本整形外科学会認定整形外科専門医

今年度より当院に手専門の整形外科医として赴任し、診療・手術を担当するようになりました。当院の手外科においては上村部長の存在が知れわたっております。毎日、実にたくさんの患者さんがいらっしゃいます。私は手の専門医とはいまだ駆け出しなので、早く患者さんに全幅の信頼をいただけるようになりたいと思っています。ひとくちに手外科といっても、骨折などの外傷からね指や腱鞘炎、手根管症候群などの慢性疾患まで、症例は実にさまざまです。日々、上村部長に学びながら、安全に迅速に診断や手術を行えるよう努めています。

2人体制になったことで、伝達麻酔による日帰り手術にも積極的に取り組めるようになりました。骨折の緊急手術などにも、柔軟かつ迅速に対応しています。また、他院ではなかなか見ることのない神経移行術、マイクロサーボジャイロなど、上村部長の経験と技術があるからこそ可能な手術も数多く、貴重な体験と勉強をさせてもらっています。

手術は成功したから終わりではなく、術後のリハビリも非常に重要であることは、いうまでもありません。医師として、その意識を患者さんにしっかりと持っていたいことを大切にしています。加えて、リハビリとは別に、外来でも専門医の立場からどう固定してどう動かすのがよいかなど、手厚くお話し、より効率的に回復



できるようサポートします。手は生活のなかでも大きな役割を果たす部分だからこそ、不便のないよう患者さんと一緒に回復を目指していきます。

これからも患者さんと真摯に向き合い経験を重ね、スキルを磨いていきたいと思います。何卒よろしくお願ひいたします。



STAFF

小西 定彦 (こにし さだひこ) 統括副院長

専門分野 脊椎脊髄外科、整形外科一般
日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医・専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、中部日本整形外科災害外科学会評議員

高橋 信太郎 (たかはし しんたろう) 副部長

専門分野 関節外科、整形外科一般
日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本人工関節学会認定医、難病指定医

安田 宏之 (やすだ ひろゆき) 副部長

専門分野 脊椎脊髄外科、整形外科一般
日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医・専門医

寺川 雅基 (てらかわ まさき) 医長

専門分野 脊椎脊髄外科、整形外科一般
日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医・専門医、難病指定医

中井 智也 (なかい ともや) 医師

専門分野 整形外科一般

池田 計介 (いけだ けいすけ) 医員

専門分野 整形外科一般

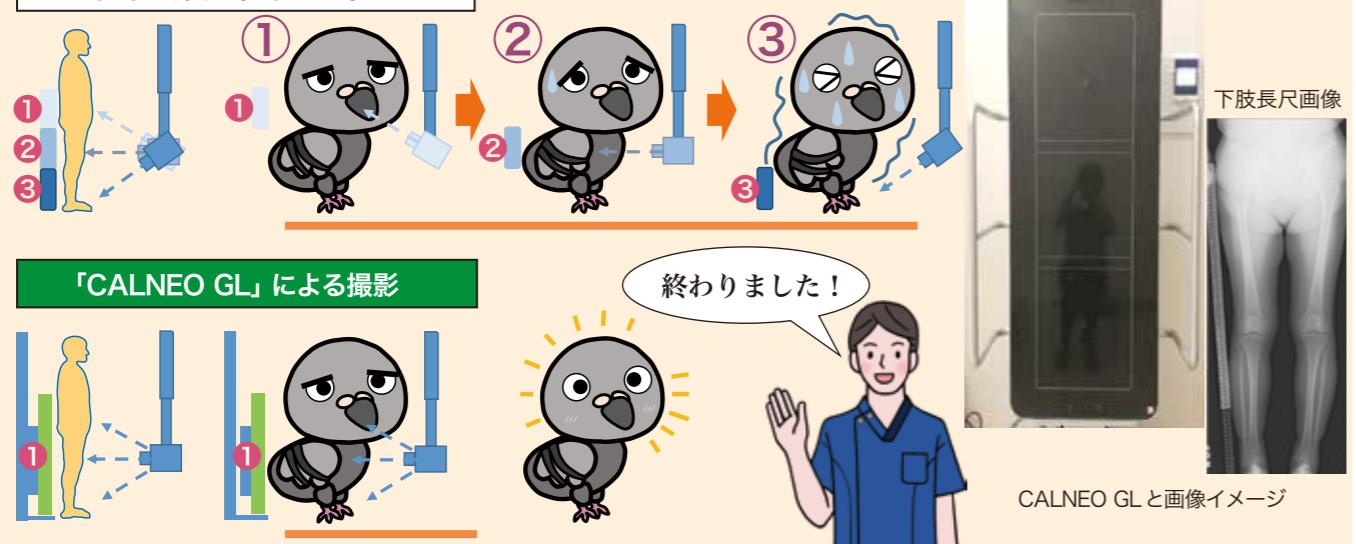
Radiation Station

放射線部門

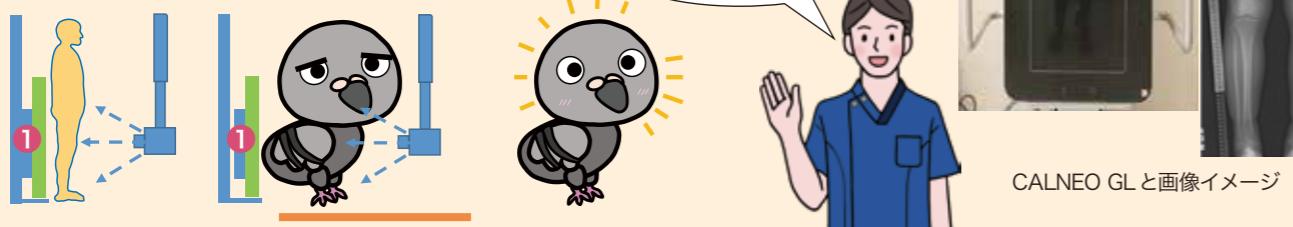
長尺撮影の最新機器導入！「CALNEO GL」とは

レントゲン検査の「長尺撮影」とは、全脊椎（頸椎～骨盤部）や下肢全長（骨盤～足趾）のように、通常の撮影範囲では撮影できない長さの範囲を撮影する方法です。大阪鉄道病院の放射線科では、最新機種「CALNEO GL」を導入しました。これまでの長尺撮影とどう違うのか、わかりやすく解説します。

従来の撮影（分割撮影）



「CALNEO GL」による撮影



従来の機器では、3回の撮影を行い画像を合成して長尺撮影を行っていました。そのため撮影時間に約10秒ほどかかり、動きに弱い点がありました。しかし、CALNEO GLは従来の3倍ものロングサイズのため、1回の撮影で終了できます。撮影時間も通常のレントゲンと変わりなく、被ばく量も軽減します。

ようこそ臨床検査室へ

聴力検査について

【大阪鉄道病院の臨床検査室】

現在、聴力検査を含めた「聞こえ」に関するいくつかの検査を臨床検査技師が行っています。

今回は、その際のご注意や、知っておいていただきたいことをご紹介します。



●狭い防音室に入室

聴力検査は、遮音された狭い部屋に患者さん一人で入っていただいて行います。閉所恐怖症などで、苦手に思われる方も少なくありません。マイクとモニターをつなげていますので、気分が悪くなつた場合は、検査中でもご遠慮なくお伝えください。

●ヘッドフォンを正しく装着

- 正しくしっかりと装着するため、眼鏡、イヤリング、ピアス等はあらかじめ外していただきます。
- 患者さんへのヘッドフォンの装着は臨床検査技師が行います。

正しい検査結果を得るために、装着後はヘッドフォンを動かさないようご注意ください。手で耳に押さえつけることもタブーです。

●聴力検査の予約時間について

聴力検査は患者さんにがんばっていただく検査です。所要時間は個人差があり、10分程度で終わる方もいらっしゃれば、20分以上かかる方もいらっしゃいます。

そのためご予約の時間通りにお呼びできることもありますが、ご了承いただければ幸いです。

ご紹介します、当院の「縁の下の力持ち」

医師事務作業補助者の仕事

医師が診察業務を円滑に行えるようサポートしています

医師事務作業補助者 川北 由美子

普段「医師事務さん」と呼ばれている私たちの正式名称は「医師事務作業補助者」で、現在は7名のスタッフが在籍しております。診療中、医師の隣でパソコンに向かっている姿がご記憶にある方もいらっしゃるのではないでしょうか。

医師の事務業務負担を軽減するために設けられた職種で、診断書の代行作成や、外来での診療補助業務を中心に行ってています。業務内容は多岐にわたり、各診療科の知識が求められますので、継続的な勉強は欠かせません。また看護師やクラーク、検査技師など、必要に応じて多職種間のつなぎ役も担いますのでコミュニケーション力も重要です。

患者さんに接する機会も多く、外来で治療前後のアンケートなど、データ収集に協力をいただくこともあります。みなさま快く応じてくださり、大変助かっています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

一方で、患者さんからご依頼いただいた診断書等に関して、時にお待たせすることもありますが、医師と協力して迅速にお渡しができるように努めてまいります。

これからも陰ながら医療の質向上のために尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

‘24年春より制服が新しくなりました！」



「これまで白衣だったので、汚れが目立つことが気になっていたのですが、新たな医師事務専用の制服を着用することで悩みが解消。とても動きやすく、デザインも素敵で周囲からもご好評いただいている」

お知らせ

当院薬剤部の主任薬剤師・泉川博子が「大阪府薬事関係等功労者知事表彰」を受賞しました。

昨年（令和5年）10月、当院に勤務する薬剤師・泉川博子が大阪府薬事関係等功労者として知事表彰を受賞しました。「医薬品等の研究、生産並びに供給等に長年にわたり従事し、府民の保健衛生の維持向上に寄与した功績のある医療関係者」が厳正な審査のもと選ばれるもので、当該年度の病院薬剤師からはたった5名という栄えある受賞です。



2019年（令和元年度）に一般社団法人大阪府病院薬剤師会よりいただいた有功賞に続き、今回大阪府知事より輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。この受賞の背景には、入職時より薬剤師の先輩方や多職種の医療に関わる方々、患者さんから多くのご指導、ご支援をいただいたお陰とたいへん感謝しております。

時代とともに薬学部の教育課程は4年から6年へ、臨床現場の薬剤師は対物業務から対人業務へと変化しています。またわが国は少子高齢化に伴い治療だけでなく予防にも重要性が増してくるなど、将来安心して暮らしていくことができる持続可能な社会を目指すためにも良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることが必要と考えます。当院薬剤部においても、そんな社会の流れに対応できる人材の育成が急務となっています。

私自身、昨年度まで長く病棟薬剤師のリーダーを務めてきましたが、今春より薬剤部に戻り当院の今後を担う次世代の薬剤師の指導にも力を注いでいます。何よりも大切にしたいのは、「患者さん目線」を備えた薬学的管理やコミュニケーション能力です。また、院内外問わず薬剤師同士あるいは他職種との連携や、薬剤の専門家として医師にも提案できるスキルと判断力の涵養も必要です。これからも大阪鉄道病院薬剤部として適正な医療の提供を通じ、会社や社会に貢献できるよう精進してまいります。



主任薬剤師 泉川 博子